

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人榎本地域活動協議会	代表者	山田 重信	法人・事業所の特徴	みつるぎの里は、地域住民が主体となって設立・運営する全国的にも珍しい法人形態であり、「老いても住み慣れた地域で暮らし続ける」ことを理念として、地域密着型の介護を実践している。地域活動協議会との強いつながりを基盤に、利用者・家族・地域住民が協働し合う‘地域共生の場’として機能している。また、職員は地域の一員としての自覚を持ち、地域行事や防災活動へ積極的に参加し、地域に開かれた事業所づくりを進めている。小規模多機能型居宅介護の利点を活かし、柔軟な暮らしの支援・ソーシャルワーク・生活支援を重視した支援体制を整えている。
事業所名	みつるぎの里	管理者	彌重 卓志		

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報共有の不足改善、研修参加、アセスメント力向上	研修で知識向上。情報共有はばらつき残る。	取り組み姿勢は良いが共有方法に課題。	伝達手段統一、双方向会議、生活歴理解強化。
B. 事業所のしつらえ・環境	柔軟な空間づくり、地域に知ってもらう活動	居心地改善、環境整備概ね良好。	地域に開いた空間が課題。	季節や生活リズムに応じた整備、防犯確認。
C. 事業所と地域のかかわり	地域理解研修、地域行事参加の促進	認知向上、交流進むが若手参加弱い。	連携前進も偏りあり。	年間計画作成、顔の見える関係づくり
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	ソーシャルワーク基盤の支援継続	地域交流支援進むが距離課題の地区あり。	訪問支援の重要性高い。	地域資源発掘強化、他地区連携拡大。
E. 運営推進会議を活かした取組み	双方向意見の促進	事例検討実施も報告中心。	地域の意見反映が弱い。	意見テーマ設定、反映し組み導入。
F. 事業所の防災・災害対策	地域防災連携、役割明確化	訓練実施・理解にばらつき	職員判断力向上が必要。	夜間対応マニュアル強化、避難連携強化。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日(18:00~20:30)
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	4人	1人	11人

前回の改善計画	情報の共有についてできていない記述が目立つ。その部分については会議・研修などの頻度の低さ、また開催をしても参加ができなかったりと、個々の職員で情報を持つ量に偏りが生じ、共有不足も露呈している。同時に、利用者様の事について知っていく意識が低いので、個々に高めたいとの意見も見られた。 ・月1回、研修とは別で情報共有の場を定例的に開催して参りたい。 ・利用者様のご自宅でのアセスメントなど、非常勤職員が同行などして気づきを得る。
前回の改善計画に対する取組み結果	情報の共有については、個々の知識レベルの向上を行いつつ、支援するうえでの情報の共有は、申し送りや記録に目を通してもらった。一定職員の意識は上がってきているが、会議での価値の共有には至っていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?		6	5		11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	1	5	4		11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	6	2	1	11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	5	3	2	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○研修を通じて個々の知識の向上を計ってきました。少しずつではあるが、生活支援の視点をイメージできる職員が増えてきました。 ○ケアマネジャーが情報を丁寧に伝えてくれている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○知識不足の職員が複数人いる。 ○書面での伝達では伝わりにくい部分の共有に課題が残る。	

	(200字以内)
引き続き個々の知識力の向上を計りつつ、初期支援を充実していきたい。 しかしながら、知識・情報が入ってくることによる先入観には注意を払いたい。 実際に出会い、お付き合いする事で見つけられるニーズや情報も大切にしていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日（18：00～20：30）
2. 「～したい」の実現（自己実現の尊重）	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	人	9人	2人	11人

前回の改善計画	できていないを回答する職員が多く、日々の関わりの中で本当のご本人の気持ちに迫れていないのではという、自信が持てていない状況がある。前項と同様に、情報共有の課題もある。 ・支援計画を全員が目を通す。 ・ニヤリホットの活用を再び再開して気づきの共有をはかる。
前回の改善計画に対する取組み結果	ニヤリホットの活用には至らず、出来ていないと全員が回答。ただ、個々職員の気づきは確実に向上しています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか？		4	5	2	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか？	2	2	6	1	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか？		4	6	1	11
④	実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか？		2	8	1	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○本人の～したいに気がつける職員は増えている。 ○日常生活の中で、細かい所での本人らしさに気づいている。 ○通いの空間でもおとしよりさんが活動的になってきている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○ニヤリホットの活用ができていない ○気がついていてはどうしていいのかわからない、又は自信が持てなくて実践に繋がらない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
○ニヤリホットの活用 ○自信を持って気づいたことを実践していく機会を作る ○実践したことをチームで振り返り、おとしよりさんが自己実現へ向かう環境を作る ○おとしよりさんのことで気づいたことを話し合える場を作る（何にも決めない会議）	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日(18:00~20:30)
3. 日常生活の支援	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	6人	3人	1人	11人

前回の改善計画	利用者様の今の生活を支えるので精一杯になり、過去の暮らしまで馳せることができていないという意見も見られた。一方で、基本的な介護においては臨機応変に対応できているという意識が多く見られた。 ・自分自身が感じた利用者様の変化について、その場で意見交換を行いながら申し送りや個別ノートに記録する。 ・以前の暮らし方、ご本人にとっての当たり前を再度意識し、実際その問いかけを本人に多くしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	日常生活の支援が出来ていると回答する職員が多かったが、本当に細かいところまで理解できている職員は多くはない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	1	7	2	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	7	3		11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	3	6	1	11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	5	4		11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	6	3		11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○研修を通じて一番力を入れている分野です。少しずつ何人かの職員は生活支援の視点を養いつつあり、力を付けてきています。実際に現場で丁寧におとしよりさんと関わる姿を目にするようになりました。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○一言で生活支援というが、管理者も含めて理解するまでにはまだまだ勉強が必要だと感じる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
○来年度も引き続き、外部から講師に来てもらい、生活視点の研修を行う。 ○職員とおとしよりさんの関係性の取り方の見直し、職員の意識改革(職員の働く職場におとしよりさんが生活するのではなく、おとしよりさんが生活する場で職員が働く)	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和7年3月8日(18:00~20:30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂
松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	6人	2人	11人

前回の改善計画 現場では、利用者様が普段自宅ですぐのように過ごしているのか、という問いかけややり取りは多く感じるものの、実際そこから浮かび上がってきた地域での暮らしの問題にアプローチはできていない。視点を変えて防災からご本人が住む地域が見えることもあるように思う。 ・送迎担当のみではなく、時折は違うスタッフも送迎に同乗して、まずは住まれている地域を見る。 ・ハザードマップなどを見て、利用者様の住む地域の状況を把握する。それを現場で共有する。
前回の改善計画に対する取り組み結果 何とか出来ているが3人であるが、現場を見ていると榎本地域・今津地域でのおとしよりさんの地域での暮らしはイメージで来ている職員は多いように思います。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		4	5	2	11
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		5	3	3	11
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		4	4	3	11
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		2	3	6	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○おとしよりさんの生活は、みつるぎの里の支援だけで解決しないことを職員は理解出来ている。 ○個々のおとしよりさんの生活支援を通じて、特に榎本地域の社会資源の活用は昨年度に比べて出来ている(個から始まるソーシャルワーク)	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○榎本地域・今津地域以外の地区の社会資源について理解が出来ていない。物理的に距離が離れていて、登録されているおとしよりさんのサービスがどうしても通い中心になっているので難しい。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
今年度以上に榎本地域のおとしよりさんのサービスに関しては、地域の社会資源、インフォーマルサービスを組み合わせて生活を支援していきたい。 他の地区に関してもおとしよりさんからの出発で社会資源の発掘を行っていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日(18:00~20:30)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	3人	6人	1人	11人

前回の改善計画
柔軟にサービスを組み込み、対応できているという自信が見える。より、自施設でできる事を職員皆が把握をし、意見交換できるよう取り組んで参りたい。 ・月1回、研修とは別で情報共有の場を定例的に開催して参りたい。 ・小規模多機能型居宅介護とは何かを再び学ぶ機会を作り、職員で支援リズムについて意見交換ができるようになる。
前回の改善計画に対する取組み結果
小規模多機能としての柔軟なサービス提供は、日々のおとしよりさんの様子で変わってきます。情報共有の場が少なく、申し送り、記録が主になっているので、細かいおとしよりさんの変化に追いついていない職員のいる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	3	6	1	11
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	5	3	1	11
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	1	4	5	1	11
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	4	4		11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○一部の職員ではあるが、おとしよりさんの変化に気づき、柔軟なサービス提供ができています。通いに来る時間がその日その日によって違う。(職員都合ではなくおとしよりさん都合)夕食を食べて帰る日もあれば自宅で食べる日もある。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
全職員が柔軟な視点を持ててはいないので、日によっては職員の主導で流れる日もある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
当然仕事として与えられたことを遂行する職員は気づきが少ない。気づけない職員からしたら、決まった事が変更になるストレスも生じる。それがなぜ、おとしよりさんにとって必要なのかは、管理者ないしは理解できている職員が丁寧に気づけていない職員に説明していく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和7年3月8日(18:00~20:30)

6. 連携・協働

メンバー 彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂
松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	6人	2人	11人

前回の改善計画	役割意識が高く、職員があまり外へ出る機会が少ない事が露呈している。まずは役職者が地域の情報収集に努め、情報を開示していくことから始めていきたい。 ・会議など外へ出た職員が、まずは簡単な事からでも現場にて情報共有を行う。 ・地域の方がふらっと気軽に寄れるみつるぎ、について現場にて意見交換を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	今年度は管理者が地域活動に積極的に参加した。そのことで地域との関係は非常に良くなってきた。地域行事は休日が多いので、一部の職員のみしか地域イベントに参加できなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?		3	1	7	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	1		3	7	11
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	1	2	3	5	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		1	3	7	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○多職種との連携については要介護度重度のおとしよりさんを支えるためにケアマネジャーを中心に連携を取ることが出来ている。(多職種の訪問看護の看護師は自分が介護が必要になったらみつるぎの里に面倒を見てもらうと言っていました) ○地域の加茂さんに地域活動についての研修をもらった ○地域とは防災、ふれあい祭りで連携を取り、みつるぎの里も役割を持って参加できた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○職員の地域化は出来ていない。(職員が理解できていない)	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
○職員が地域化するために研修を定期的に行う。 ○おたすけ愛事業に職員がサポーターとしての機能を担う ○女性部と一緒にプランターの水やり当番に入れてもらう ○地域活動協議会の職員としての自覚を持ってもらう(ボトムアップで理解を促す)	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日(18:00~20:30)
7. 運営	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	3人	7人	1人	11人

前回の改善計画	当事者や外部の方から意見等あった場合、すぐに実行したり、場合によっては改善をしようという姿勢は強く持てるよう意識できています。個々人で、今の職場を、どう良くしていきたいかなど、根幹の話をする機会を持つことができれば、地域に向けた議論もできるようになるのではと感じます。 ・ミーティングを取る際、理想のみつるぎの里についてどう考えるか、という事も聞く。 ・個別面談の頻度を高め、意見を表出する機会を持つ。
前回の改善計画に対する取組み結果	○素直な職員が多く、現場レベルでの取り組みについては、一定評価できると思います。 ○地域の意見を聞く職員が限られているので、あまり出来ていない項目チェックが多い結果になった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?		2	8	1	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	3	6	1	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		3	4	4	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	1	2	5	3	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○地域が運営している強みを生かして、町内会の掲示板にポスターを定期的に掲示してもらっている。 ○地域の人たちと一緒にプランターの花の水やり当番を担当している。 ○事業所のあり方として、介護技術1つにしても、意見交換し学びを深めた。 ○地域、おとしよりさん、家族の声を聞きこぼさないように聴くことに力を入れた。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○限られた職員しか地域福祉の必要性を理解できていない。 ○地域が運営している強みを十分に生かしきれていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
今年度は地域にみつるぎの里のことを知ってもらうために、管理者が積極的に地域活動に参画した。次年度はみつるぎの里の職員を地域に知ってもらえるように職員の意識改革を行い、実践していきたい。 具体的には、①4月、5月に地域活動協議会とは?の学習で知識を深める。②地域活動協議会の職員として、みつるぎの里の現場だけではなく、地域活動を地域の人たちと一緒に取り組む。(職員の地域化)③みつるぎの里に登録されているおとしよりさんも地域活動を担ってもらえるような支援を行う(利用者の地域化)	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和7年3月8日(18:00~20:30)
8. 質を向上するための取組み	メンバー	彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂 松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	5人	1人	3人	11人

前回の改善計画	外へでて、外部研修なども参加機会をもつと、井の中の蛙になることを防ぎ現場にいる利用者様に還元できる機会も増え、視点も広がると考えられる。介護保険の事業所として、すべき事なども皆で把握できるようになりたい。 ・外部研修や他施設見学など、全員が1度は参加できる機会の創出。
前回の改善計画に対する取組み結果	今年度は外部研修、内部研修、講演会を開催するなど学ぶ機会を充実させることができた。学ぶ機会を持つことで現場のレベルは一段階上がったと思います。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	3	4	2	2	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	5	2	3	11
③	地域連絡会に参加していますか	2	1	1	7	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	7	1	2	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○内部研修、外部研修、動画研修を行い。職員の学ぶ機会を作れた。 ○学んだことを現場の実践に繋げることが出来ている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○外部研修に参加した職員が、他の職員に伝えることができていない。 ○研修を通じて、核となる職員の意識向上はできたが、他の職員の意識の向上は課題である。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
○外部研修に参加できない職員のために、研修のビデオ撮影を行い、視聴できる機会を作る。 ○引き続き丁寧なお付き合いを職員全員が出来るように取り組んでいく。 ○外部研修に参加した職員がアウトプット出来るようになってもらう。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和7年3月8日(18:00~20:30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 彌重・米山・山内・遠上・高橋・島田・一穂
松尾・尾崎・佐野・有希

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	7人	3人	1人	人

前回の改善計画	施設内研修などで、虐待に関する意識の高まりはあるように見受けられる。今後も研修内容を充実させ、研鑽に努めて参りたい。 ・虐待研修、人権研修、制度、などの研修や勉強会の定期開催。
前回の改善計画に対する取組み結果	○研修を行い、職員の理解は深まりつつあります。新人職員がほとんどできていないと答えましたが、ビデオ視聴などで理解を深めてもらう課題が残ります。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	5	6			11
②	虐待は行われていない	6	5			11
③	プライバシーが守られている	5	6			11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	1	2	7	11
⑤	適正な個人情報の管理ができている	2	4	3	2	11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
○定期的に虐待チェックシートを職員に書いてもらい委員会で検討できている。 ○人権意識は強く職員は持っている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
○介護する・されるの関係性においては、無意識の当の本人たちも気づかないレベルでの人権問題の意識を深める必要はある。(水平な関係性) ○成年後見制度の活用	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
○今年度、成年後見制度を活用した方がよいと思われるおとしよりさんが、複数人おられました。核となる職員の制度理解のための研修」を行いたい。 ○無意識レベルでの人権意識についても、一部職員の理解を深めてもらうために学ぶ機会を作る。	